

令和 4 年度 下野市地域自立支援協議会 部会評価シート

分科会名	こども部会
構成メンバー（敬称略）	山家（部会長）、佐藤、水本、本田、柏崎、阿部
事務局	北野、奥村、鈴木鮎美
<p>【目標①】</p> <p style="text-align: center;">学童の職員を対象とした研修の実施</p> <p>【取り組み内容（予定）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●障がい児（グレーゾーン）の対応について学ぶ。 ●下野市学校教育サポートセンターの石川泰子先生を講師にお招きする。 ●平日午前中開催。集合研修形式。 ●令和 4 年 1 2 月以降、石橋の新しい複合施設で、児童館の見学を兼ねて実施。 <p>【取り組む理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●共働き家庭の増加で、学童を利用する児童が増えている。それに伴い、グレーゾーンのお子さんも増えているが、学童の職員数は限られている。 ●放デイを利用するにしても、グレーゾーンでは適さない場合がある。また、計画を立てる相談員や、市内の放デイ事業所が不足している。 ●グレーゾーンのお子さんへの理解を広めることで、職員の負担を軽減し、本人や家族が学童を利用しやすくなることを目指す。 	
実施内容	
<ul style="list-style-type: none"> ●令和 5 年 2 月 2 日、石橋公民館にて学童の支援員を対象に「あの子をもっと知るために～発達障がい基礎研修会 & 石橋児童館見学会～」を実施。6 9 名参加。 ●下野市学校教育サポートセンターの石川泰子先生を講師に迎え、発達障がいについての講義や、グループワークを行った。 	
評価	
A · B · C	
評価の理由	
<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍以降、久しぶりに対面研修を実施することができた。 ●多くの参加をいただき、グループワークでは活発な意見交換が行われていた。 ●アンケートで「自分の行動を見直すきっかけになった」「子どもの良い部分に着目していきたい」「またこのような研修をやってほしい」等、好意的な意見が寄せられた。 ●グループワークの時間が足りなくなってしまったため、内容を改善しながら次年度以降も継続的に実施していきたい。 	

【目標②】

相談や療育の有用性を周知する

【取り組み内容（予定）】

- こばと園についてのチラシを作成（卒業生や関係者のことばを掲載）。
- 一般に向けた発達障がいの啓発。
- 下野版ガイドブック（児童発達支援・放課後等デイ）の作成。

【取り組む理由】

- 下野市の乳幼児健診は網目が細かく、充実しているが、一方で親御さんの中では「こばと園に行ったら終わり」「普通学級に通えなくなる」と誤解をしている方もいる。
- 健診で指摘をされても、こばと園には相談せず、児童館で愚痴を言う親御さんもいる。こばと園に通うことになった場合の、周囲の目も気にしている。
- 児童発達支援や放課後等デイの事業所が増えてきており、どの事業所を選んでよいか迷う。

実施内容

- こばと園に限定せず、広く“療育”についての啓発チラシを作成。内容の校正を重ねており、配布には至っていない。
- ガイドブックは他市や他分野のガイドブックを参考に、どのような情報が必要か検討している。

評価

A ・ B ・ C

評価の理由

- 療育のチラシ、ガイドブックいずれも配布には至っていない。

【目標③】 ※令和4年度は①②を中心に取り組むため、長期的な目標とする。

災害時対応の課題を整理する

【取り組み内容（予定）】

- 災害時にどんな課題があるのか、どんな対応が求められるのか意見交換をする。
- 実際の対策がどうなっているのか、現状把握をする。
- いずれワーキングを立ち上げ？

【取り組む理由】

- 障がい児者は、避難をする場合に配慮が必要だが、現状で十分な支援体制があるとは言えない。
- スロープが狭い、個室が少ないなど、ハード面の改築はすぐには難しく、個別対応にも限界がある。自主防災の備えが必要。
- 昨今の自然災害の増加、ハザードマップ見直しの動きがある中、障がい児者の災害時における対応について、今一度議論を深めていく必要がある。

実施内容

なし

評価

A ・ B ・ C

評価の理由

- 目標①②を中心に活動したため、議論が進んでいない。